

# 協議会からのご意見を踏まえた 地域づくりや利活用に関する方策案

# 第1・2回活用部会、第4回協議会における主なご意見・ご提案 (福島潟モデルPJ含めた全体)

## 1. 広報

### ①ウェブサイトの改善 ⇒ p.4~7

- ・ウェブサイトまでたどり着ける工夫が必要（相互リンクの依頼など） ⇒ p.4
- ・お問合せ内容の回答項目の手前に、問い合わせカテゴリーを用意 ⇒ p.5
- ・指標種選定理由の説明を追加 ⇒ p.6

## 短期的に検討

- ・潟カメラの活用（YouTube配信など）
- ・授業の一環で学生とコラボしたイベント実施や、学生によるSNS発信
- ・多言語化

## 2. 観光

- ②ターゲット層の明確化が必要⇒p.10～15. 参考資料
  - ・プロジェクトを走らせながら、利用者のバックグラウンド（利用目的等）や要求を都度解析することで、ターゲットを明確化しターゲットに合わせた情報を発信
  - ・アドベンチャーツーリズムを参考にしているかどうか
- ③景色を見ながらお茶を楽しめる場所は地域の魅力を伝える上で有効  
⇒資料3. 福島潟モデルPJ「オープンカフェ」

### 福島潟モデルPJ内で短期的に検討

- ・ヒシやマコモなど、福島潟のプロダクトの活用
- ・レンタサイクルの運用、福島潟堤防を回るサイクリング
- ・アウトドアメーカーとの連携

### 福島潟モデルPJ内で中期的に検討

- ・潟舟の活用
- ・雁晴れ舎の活用
- ・キャンプ場の冬期利用（ウィンターキャンプ）
- ・ラムサール条約湿地自治体認証の活用

## 3. 農業

### 短期的に検討

- ・ 農業者の参画

## 4. 支援体制の構築

### ④他地域との連携

他の生態系ネットワークとも連携し、県や地方をまたいだネットワークの構築や海外との連携など、生物に限らず様々な分野でのネットワークの拡大を推進

⇒ p.8~9 (新潟大の学外実習：関東エコネット視察)

## 5. その他

### 中期的に検討

- ・ ビュー福島潟の反対側にサテライト的な休憩場所の設置

## 6. 環境学習

### 環境学習モデルPJとして実施

- ・ 中学校等の総合的な学習の時間における今後の連携案の検討 (短期)
- ・ 「小・中・高校の総合的な学習の時間でフィールドワーク」 (中期)
- ・ 「環境分野に関心のある生徒が集いゼミのように学び合える場づくり」 (中期)
- ・ 「地域貢献プロジェクトの環境分野チームの伴走」 (中期)

# 前回からの進捗状況

## ①ウェブサイトの改善

- ・リンクの追加。
- ・相互リンクの呼びかけ。

リンク一覧 相：相互リンク

相 北陸地方整備局

- ・信濃川大河津資料館
- ・阿賀野川河川事務所
- ・阿賀野川の自然

相 あがのがわ環境学舎

- ・新潟県立鳥屋野潟公園
- ・鳥屋野潟がってんプロジェクト

相 水の駅「ビュー福島潟」

- ・NPO法人ねっとわーく福島潟
- ・菱風荘（りょうふうそう）
- ・新潟県立環境と人間のふれあい館
- ・遊水館（ゆうすいかん）
- ・佐潟水鳥湿地センター
- ・佐潟と歩む赤塚の会
- ・阿賀野市
- ・瓢湖

Facebookで紹介いただいた

## えちごエコネットHP 改善例



### 福島潟

福島潟（ふくしまがた）は、新潟市北区と新発田市にまたがり、面積は260haと、潟と名のつく湖の中では新潟県内で最大です。五頭連峰を主な水源とする13本の河川が流入し、越後平野の低湿地環境を象徴する存在です。

これまで220種以上の野鳥と、470種以上の植物が確認されている自然の宝庫です。冬はハクチョウ類とともに、国の天然記念物オオヒシクイが飛来し、日本有数の越冬地として知られています。

水の駅「ビュー福島潟」は、福島潟の自然と文化の情報発信施設です。高さ29mの屋上からは潟と越後平野を一望でき、館内では潟の動植物や歴史の展示、潟の中のライブ映像を楽しむことができます。

また周辺には、福島潟を間近に眺められ野鳥の観察ができる「曙晴れ舎(げんぼれしゃ)」、潟のヨシで屋根を葺き、床は板張りの豆敷じきで囲炉裏があるなど昔の民家を再現した「湯東亭(かたらいてい)」、コテージタイプの宿泊施設「菱風荘(りょうふうそう)」などの施設が充実しています。また水鳥が訪れる福島潟周辺の水田で、環境にやさしい農法で育った米を使った日本酒蔵「ラグーンブリュワリー」は、ショップとカフェが併設されており散策の一息におすすです。

外部リンク

水の駅「ビュー福島潟」

NPO法人ねっとわーく福島潟

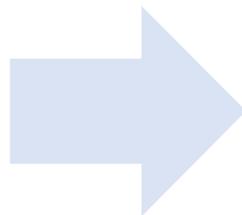
菱風荘(りょうふうそう)

新潟県立環境と人間のふれあい館

遊水館(ゆうすいかん)



お問合せ内容の回答項目の手前に  
問い合わせカテゴリーを用意



問い合わせカテゴリーの追加

### お問い合わせ目的

ご質問/ご意見/えちごエコネットへの参加希望/その他

### お問い合わせ内容

- ・ えちごエコネットや生態系ネットワークの考え方
- ・ えちごエコネットの見どころ
- ・ 指標種
  - ・ ガン類
  - ・ ハクチョウ類
  - ・ トキ
  - ・ その他
- ・ 環境づくりや地域づくりに向けた進め方や目指すこと
  - ・ 環境づくり
  - ・ 人・地域づくり

## えちごエコネットHP 改善例

お問い合わせ

\* 必須の質問です

今回ご連絡いただく目的について、当てはまるものをチェック願います（複数回答可）。

ご質問

ご意見

情報提供

えちごエコネットへの参加希望

その他: \_\_\_\_\_

お問い合わせ等の内容について、当てはまる項目を選択してください\*

えちごエコネットや生態系ネットワークの考え方について

えちごエコネットの見どころについて

指標種について

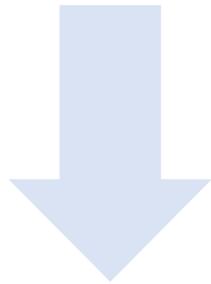
環境づくりや地域づくりに向けた進め方や目指すことについて

その他: \_\_\_\_\_

# えちごエコネットHP 改善例



指標種選定理由の説明を追加



指標種にハクチョウ類、  
トキを選定した理由を追記



## 指標種の設定

生態系ネットワークの形成にあたっては、地域の生物多様性の現況や、社会や経済への効果も見据えながら、地域を特徴づけ、取組のシンボルとなる生きものを「指標種」として位置づけることが効果的です。指標種を選定することで、取組の道筋や目指すべきゴールが関係者間で共有しやすくなります。

指標種を選定にあたっては、対象となる範囲の広がりや地域の特性に応じた観点に着目して、ふさわしい生きものを選ぶことが重要です。

越後平野においては、次のような視点により、多様で豊かな生息環境の保全・再生の取組を推進する指標種となり、かつ賑わいのある地域振興・経済活性化の取組を推進するシンボルとなる生きものとして、ガン類・ハクチョウ類・トキを選定しました。

### ①多様で豊かな生きものと自然環境のシンボル

潟や河川を中心とした平野部に暮らすガン類とハクチョウ類は、ねぐらとなる安全な水辺空間と、採食するための広大な水田や水辺が必要です。里地・里山に暮らすトキは、森林をねぐらや営巣場所とし、湿地や水田を利用して、幅広い生物を採食します。そのため、これらの指標種がその地域に生息することは、その食物である多くの生き物が育まれている豊かな自然環境がある証となります。

### ②自然と共生する社会のシンボル

ガン類・ハクチョウ類・トキは大型の鳥類で、よく目立つことから、取組の効果を実感してもらいやすい生きものです。また、いずれも馴染みのある生きものであることから、地域の人々の関心や支持を集めやすく、行動を引き出すことにつながります。

- ・一般の方向けにエコネットを分かりやすく解説したスライドページの追加
- ・同ページへリンクするバナーの追加

## バナー (案)



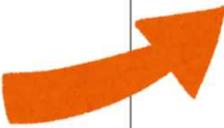
えちごエコネット  
(越後平野における生態系ネットワーク) とは

えちごエコネットは「越後平野における生態系ネットワーク」の愛称です。

以下では、「生態系ネットワーク (=エコロジカル・ネットワーク)」の意味や、「越後平野」の魅力についてご紹介します。

エコネットについて  
ざっくり知りたい方





## スライドページ (案)

<p>エコネットがなかったら①</p>  <p>越えられない... たまご産めない...</p> <p>カエルは卵を産めないかも</p>	<p>エコネットがあれば①</p>  <p>歩いていけるって最高!</p> <p>カエルは住みやすく嬉しい カエルを食べるトリも...</p> <p><small>吸盤がないアカガエルなどは、コンクリート水路などに落ちると上がれなくなってしまいます。早急に森から田んぼなどの水辺へやってきて卵を産み、オオマジャクシがカエルに降って食わかえるというサイクル(カエルサイクル)...これが途切れてしまうと、カエルがどんどん減ってしまいます。まずは、カエルなどの小動物のための小さなエコネットを確保することが大切です。カエルが増えるとカエルを食べる鳥も嬉しい...</small></p>
<p>エコネットがなかったら②</p>  <p>エサ場 怖い... 町も 怖い...</p> <p>ハクチョウは ご飯を食べられないかも</p>	<p>エコネットがあれば②</p>  <p>近くにあるって最高!</p> <p>ハクチョウは毎日 たくさんご飯を食べられます</p> <p><small>ハクチョウやヒシクイなどの水鳥は、湯や川でねぐらをとり、昼間は周りの田んぼで落ち餌や糞などの食べ物を採ります。安全なねぐら(産卵場所)の周りに、たくさん田んぼ(食べる場所)が広がっていると、水鳥たちは安心して冬を過ごすことができます。産卵場所、食べる場所のどちらかだけでは暮らせませんし、毎日通う場所なので、あまりに離れていても大丈夫です。水鳥のため、中くらのエコネットも守っていく必要があります。</small></p>
<p>エコネットがなかったら③</p>  <p>大雪が降ったら、どこへ行けば...</p> <p>ヒシクイは行き場を なくしてしまうかも</p>	<p>エコネットがあれば③</p>  <p>気軽に引っ越してできるって最高!</p> <p>いざとなったら 住む場所を変えられます</p> <p><small>ハクチョウやヒシクイなどの水鳥は、田んぼに雪が積もって開をとれなくなると、別の場所へ移動しなければなりません。越後平野では、福島湖の周りに雪が積もっても、雪の少ない俊湯などへ移動して暮らしていくことができますので、水鳥たちにとってのセーフティネットが確保された、安心な地域といえます。このように、水鳥のためには大きなスケールでのエコネットも維持する必要があります。</small></p>

# ④他地域との連携

## 新潟大学 関東エコロジカル・ネットワーク学外実習(6/4-5)

ねらい	関東地域と越後平野のエコロジカル・ネットワーク事業の交流の一環として、新潟大学の学生が関東エコロジカル・ネットワークの主要フィールドにおいて、越後平野における大型水鳥類の生息環境の拡充に向けた、堤内外の事業連携の望ましいあり方について考える。
対象	新潟大学 大学院生24名（理学部系・農学部系）
コーディネート	(公財) 日本生態系協会

6/4 (日) 野田市	<p>このとりの里</p> <p>講話①「野田市を拠点に広がる関東のエコネットについて」：野田市みどりと水のまちづくり課</p> <p>講話②「江川地区の経緯と現況の取組みについて」：野田共生ファーム</p> <p>施設見学 コウノトリ飼育施設「このとりの里」</p> <p>巣塔・生物多様性に配慮した水田の視察：(公財) 日本生態系協会</p>
-------------------	---



前日の降雨により冠水した田んぼ



野田市による講話



(公財) 日本生態系協会 職員による水田調査の説明

6/5 (月) 小山市	コウノトリ交流館	施設見学 「コウノトリ交流館」：わたらせ未来基金
	生井桜つつみ周辺	コウノトリの繁殖状況、見守りボランティアの取組み、巣塔の設置の経緯、環境学習フィールドでの活動状況、ビオトープ水田：小山市自然共生課 遊水地内における湿地形成の取組み：利根川上流河川事務所
	与良川統合排水機場	国営栃木南部農業水利事業所の取組み（生物多様性への配慮等） ：栃木南部農業水利事業所
	生井公民館	講話①「渡良瀬エコネットの経緯と現況の取組みについて」 ：わたらせ未来基金理事長  講話②「関東エコネット推進協議会における取組みについて」 ：国土交通省 関東地方整備局 河川環境課



**(参考情報)**

## ②ターゲット層の明確化

### アドベンチャーツーリズムのターゲット層

客層全体

- ・4つ星以上のホテル
- ・食文化体験など、その土地の文化を体験できるアクティビティが人気。
- ・専門的な知識が求められないもの（サイクリング、トレッキング等）が人気。

⇒他の自然を要素に含むツーリズムよりもアドベンチャーツーリズムの客層はハイエンドであり、経済振興に貢献する要素が高い。

3つのセクター

	S1.文化的地域探検者	S2.体験詰め合わせ型 挑戦者	S3.アドベンチャー集中型、 自然・文化探検者
年齢	43.7	37.8	40.2
目的	ハードアクティビティは目的としていない。文化的なアクティビティを好む。	ハード・ソフト関係なく幅広くアクティビティに挑戦する。	ハード・ソフト関係なく定期的に行えるアクティビティを好む傾向。より専門的なアクティビティを好む。
情報源	旅行業者等	雑誌・ラジオ等の幅広いメディア	プロのSNS投稿や専門メディア等のオンライン中心

ソフトアクティビティの例：食文化体験、野生動物観察、ハイキング

出典：国土交通省 観光庁 観光地域振興部 観光資源課 令和4年

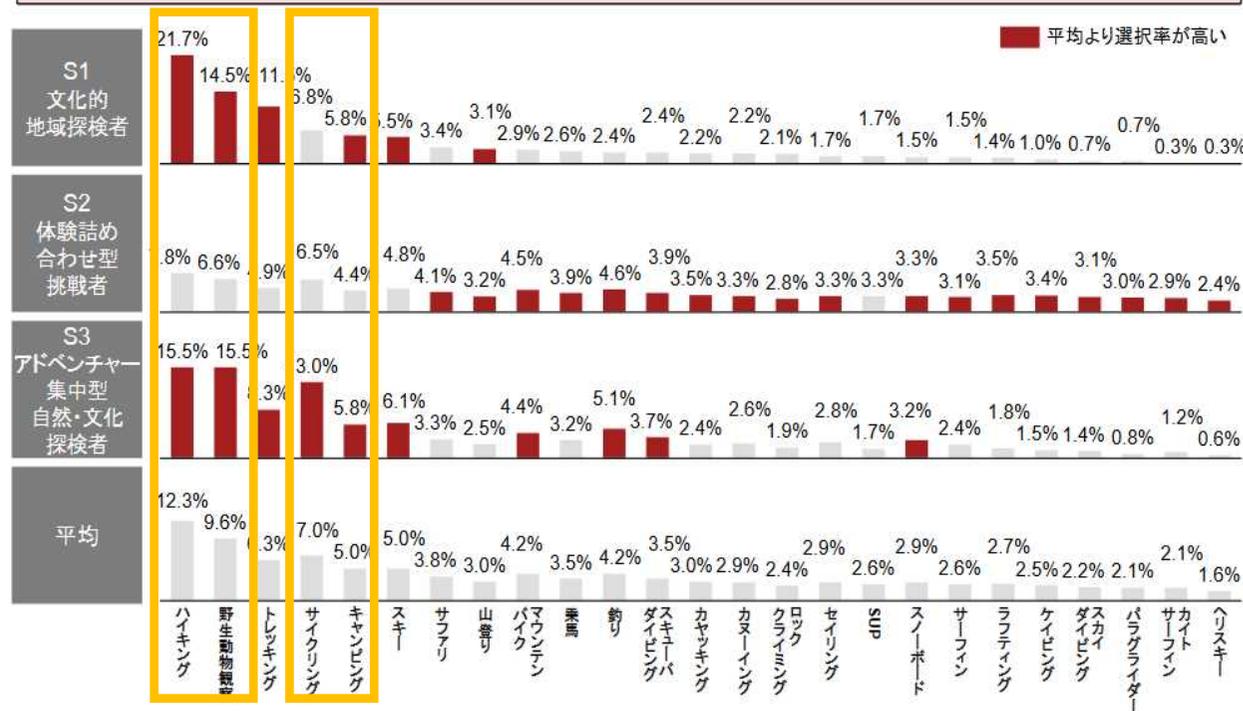
# 各セクターの好むアクティビティの傾向

福島潟で経験できるアクティビティは、「S1.文化的地域探検者」と「S3.アドベンチャー集中型、自然・文化探検者」に好まれる傾向がある。

⇒ターゲット層は「S1.文化的地域探検者」と「S3.アドベンチャー集中型、自然・文化探検者」が考えられる。

## アクティビティ参加傾向と好むアクティビティ

S1・S3は、ハイキングといった定番のソフトのアクティビティを好む一方で、S2はハード系も含め幅広くアクティビティに挑戦する傾向にあります。



出典：北海道運輸局「2019年度アドベンチャートラベルコンテンツ達成事業最終報告書」P.72

# 広報手段

## ターゲット層

- ・ 文化的地域探検者
- ・ アドベンチャー集中型、自然・文化探検者

## 情報源

- ・ 文化的地域探検者⇒旅行業者
- ・ アドベンチャー集中型、自然・文化探検者  
⇒ プロのSNS投稿や専門メディア等のオンライン中心



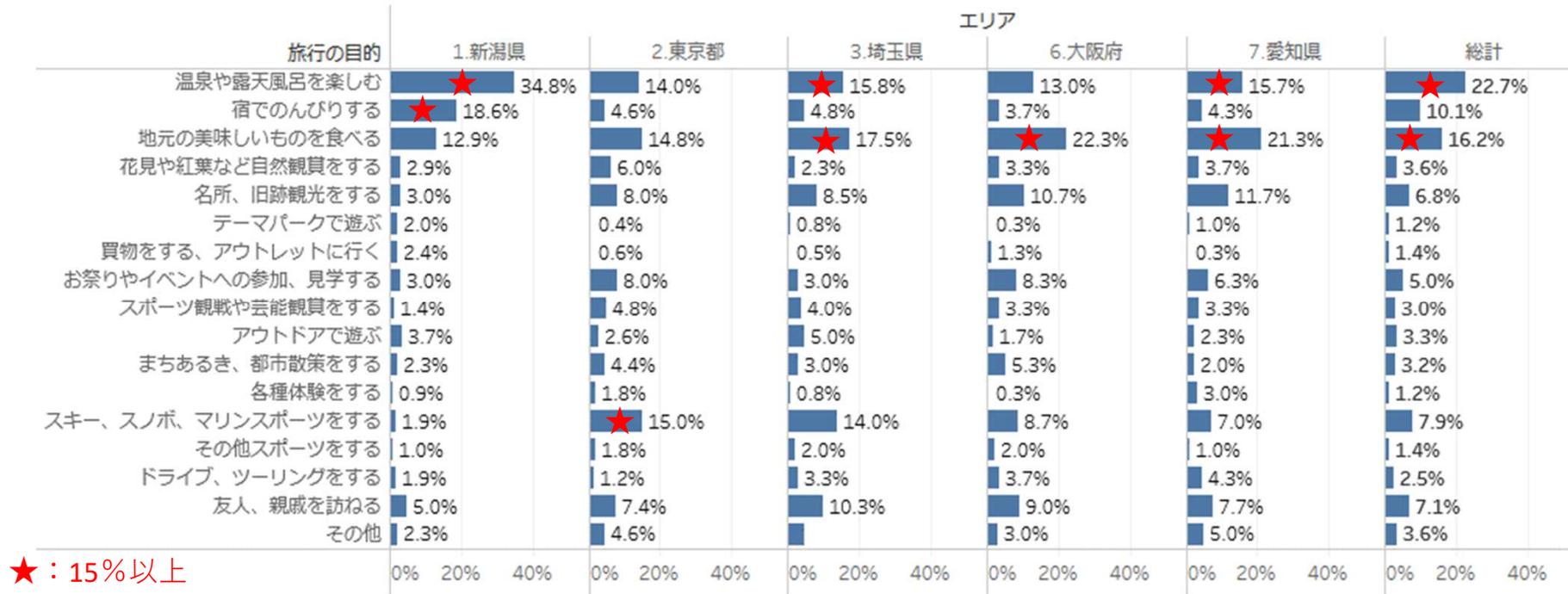
旅行ライター等の投稿



専門Webメディア(アクティビティ系)



# 県別新潟県への旅行目的

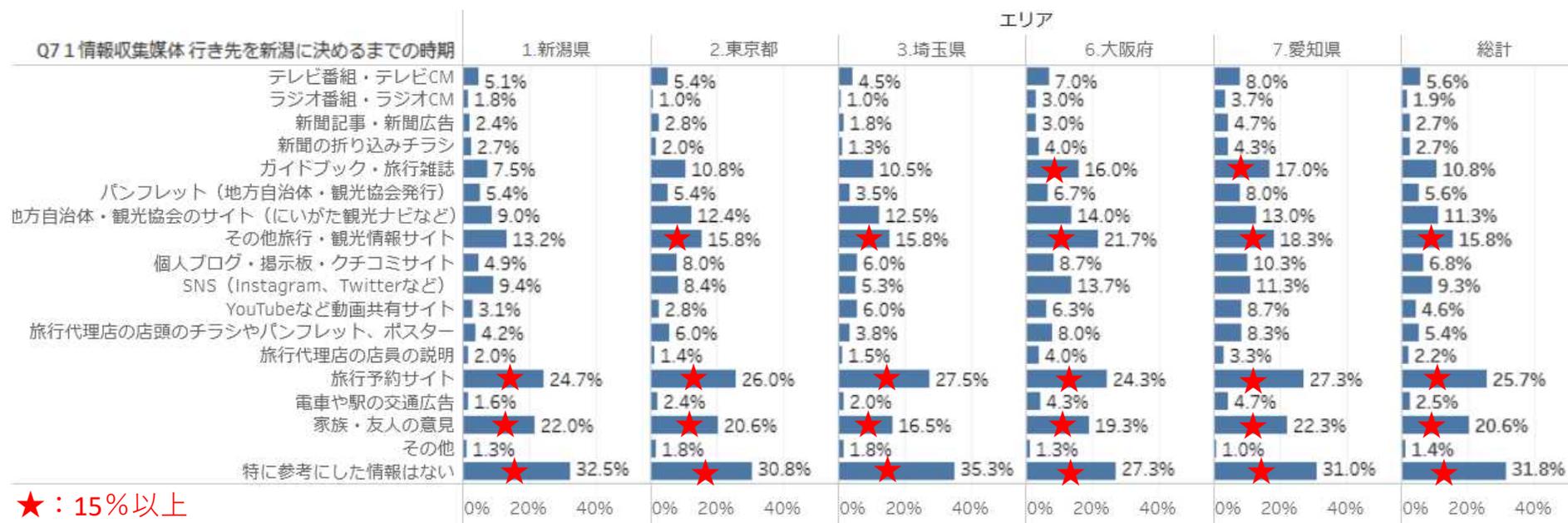


公益社団法人 新潟県観光協会HP 旅前アンケートデータ

新潟県外の観光客は、宿でのんびりするよりも、イベント参加、アウトドア、名所観光を旅行目的とする傾向あり。

⇒自然資源を活かした観光のターゲットは県外の観光客？

# 県別新潟県への旅行決定前の情報収集媒体



公益社団法人 新潟県観光協会HP 旅前アンケートデータ

どの県からの来訪者においても、主な情報収集媒体は旅行予約サイト。  
⇒旅行予約サイトとの連携？